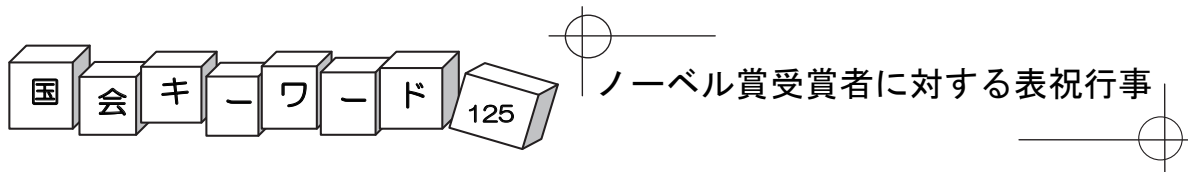


参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題	国会キーワード「ノーベル賞受賞者に対する表祝行事」
著者 / 所属	後藤 雅貴 / 第三特別調査室（庶務部文書課兼務）
雑誌名 / ISSN	立法と調査 / 0915-1338
編集・発行	参議院事務局企画調整室
通号	488 号
刊行日	2026-10-27
頁	119
URL	https://www.sangiin.go.jp/jpn/shiryo/chousa/rippou_chousa/backnumber/20261027.html

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください（TEL 03-3581-3111（内線 75013）／ 03-5521-7686（直通））。



破合憲三東京理科大学名誉教授のノーベル化学賞受賞が10月7日に発表されました。これで、一昨年の平和賞、昨年の生理学・医学賞及び化学賞に引き続き、3年連続の日本からのノーベル賞受賞となり、お祝いムードに包まれました。

ノーベル賞受賞者に対しては、文化勲章受章など、政府が表彰する様々な行事がありますが、衆参両院においても受賞者とその配偶者や関係者などを国会議事堂にお招きし、表祝行事を行っています。今年を含め、これまで日本のノーベル賞受賞は31人（日本出身者を含む。）及び1団体でしたが、参議院は、このうち28人及び1団体に対して祝意を表明してきました。この表祝行事は、衆参それぞれの院が独自に行っていますが、実際には受賞者らの都合を考慮し、同日に衆参続けて実施するのを例としています。

具体的には、表祝行事は衆議院から実施されます。受賞者らは国会に到着すると、衆議院側から入り、衆議院議長応接室に案内されます。議長応接室には議院運営委員会及び関係委員会の委員長・理事等が一同に参集しており、その中で議長から表彰状と記念品が贈呈されます。続いて受賞者の謝辞があり、懇談となります。懇談後、記念撮影を行って、衆議院での表祝行事は終了します。

衆議院側の行事が終わると、受賞者らは国会議事堂内の衆参の境である中央広間に移動します。中央広間で受賞者らは参議院側へと引き継がれ、今度は参議院議長応接室へと案内されます。

参議院では、議長応接室で正副議長並びに議院運営委員長及び同理事の出迎えを受けます。続いて、議長の挨拶、議長から祝辞と記念品の贈呈、受賞者の謝辞を経て、懇談となります。その後、一同は議場へ移動して記念撮影を行い、受賞者らは、議場を参観します。議場参観後、受賞者らは参議院側から退出し、一連の表祝行事は終了となります。

以上の衆参両院を通じた表祝行事は、時間にして各院それぞれ30分程度で、衆議院から入って参議院から出るまで所要1時間余りとなり、受賞者らを先導する衛視が礼服を着用する、議事堂中央広間で衆参の引き継ぎが行われるなど、国賓等の外国賓客に対する接遇に準ずる内容で実施されています。

筆者はこれまで表祝行事に立ち会う機会が幾度かありましたが、懇談の席上では、研究成果と今後の展望、研究にまつわる苦労などの話題はもちろんのこと、受賞者からは、自身の研究は幸運にもノーベル賞の評価を得たが、他にも優れた研究が日本に数多くあるので、研究費の予算増と後進の若い研究者の待遇改善について配慮願いたい、と要望されていたことが印象に残っています。

ノーベル賞受賞者に対する表祝行事は、受賞者との直接の懇談を通じて議員が政策へのヒントをつかむ貴重な機会ともなっているようです。

ごとう まさたか
(後藤 雅貴・第三特別調査室(庶務部文書課兼務))